

8日 火曜

ホセア



6:1 さあ、【主】に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちが打ったが、包んでくださるからだ。

6:2 主は二日の後に私たちが生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは御前に生きる。

6:3 私たちは知ろう。【主】を知ることが切に追い求めよう。主は暁のように確かに現れ、大雨のように私たちのところに来られる。地を潤す、後の雨のように。

6:4 「エフライムよ、わたしはあなたに何をしようか。ユダよ、わたしはあなたに何をしようか。あなたがたの真実の愛は朝もやのよう、朝早く消え去る露のようだ。

6:5 それゆえ、わたしは預言者たちによって彼らを切り倒し、わたしの口のことばで彼らを殺す。あなたへのさばきが、光のように出て行く。

6:6 わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない。全焼のささげ物よりむしろ、神を知ることである。

6:7 ところが、彼らはアダムのように契約を破り、そこでわたしを裏切った。

6:8 ギルアデは不法を行う者の町、血の足跡に満ちている。

6:9 盗賊が人を待ち伏せするように、祭司たちは徒党を組み、シェケムへの道で人を殺す。彼らは実に淫らなことを行う。

6:10 イスラエルの家にわたしはおぞましいことを見た。エフライムはそこで姦淫をし、イスラエルは汚れてしまった。

6:11 ユダよ、あなたにも刈り入れが定まっている。わたしが、わたしの民を元どおりにす

るときに。」

「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちが打ったが、包んでくださるからだ。

6:2 主は二日の後、私たちが生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは、御前に生きる。

6:3 私たちは、知ろう。主を知ることが切に追い求めよう。主は暁のように、確かに現われ、大雨のように私たちのところに来られる。地を潤す、後の雨のように。」

以上は信仰のことばのようですが、「あなたがたの真実の愛は朝もやのよう、朝早く消え去る露のようだ。」と主は言われます。そこに悔い改めがないからです。（これを肯定的な信仰のことばに解釈するものもありますが、4節との整合性を考える必要があります）

人生の回復や祝福をいただきたいなら、主のみ手により頼むことです。しかし主は召使ではありません。主のみどころにかなわないままで、主に動けというのは、全く傲慢な姿です。

私たちはそれまでの不信仰や、不従順を悔い改めて、その上で主にお願ひすることです。主はそのために、試練を与えたもうこともあるのです。自分勝手な信仰の思い込みから、神様を主とした信仰にシフトしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

